

## R3-13 避難訓練（地震・火災・集団下校・保護者引き渡しなど）の実施

- 管内 檜山管内
- 分類 避難訓練 危険対応能力 防災訓練 その他（ ）
- 教育課程 教科（家庭・社会科） 道徳 総合的な学習の時間 特別活動
- 校種 小学校（低） 小学校（中） 小学校（高） 中学校 高等学校
- 取組のポイント

- 1 避難経路を可視化することによるスムーズな避難
- 2 教職員の役割及び保護者引き渡し訓練におけるルールの明確化

### 取組の実際

ねらい

- 児童が災害時に自分の生命を守るため、安全かつ迅速な避難行動を行うことができる資質・能力を育むとともに、保護者と学校が連携した避難体制を整備する。

### 内容

#### 1 避難経路の確認

6月に実施した津波を想定した避難訓練（地震）では、学年ごとに指定した避難経路に基づき高台へ避難した。

また、10月に実施した避難訓練（火災）では、防火扉をくぐったり、スモーク体験をしたりするなど、実際の避難場面に近い状況を体験した後、避難経路に基づき避難を行った。



【高台に避難する様子】



【防火扉をくぐる様子】



【スモーク体験をする様子】

#### 2 緊急事態発生時の役割等の明確化

学校が定める学校安全計画や危機管理マニュアルに基づき、教職員の役割について共通理解を図るとともに、緊急事態発生時の集団下校の手順や引き渡しの方法について保護者に周知している。

10月には集団下校訓練と保護者への引き渡し訓練を実施した。



【引き渡し訓練の様子】

### 成果と課題

- 学校安全計画等の内容を教職員が理解していることはもとより、児童が避難経路を理解していること、保護者が引き渡しの方法などを理解していることで災害時に必要となる行動をスムーズに行うことができた。
- 冬季間の災害を想定した避難訓練を実施する必要がある。